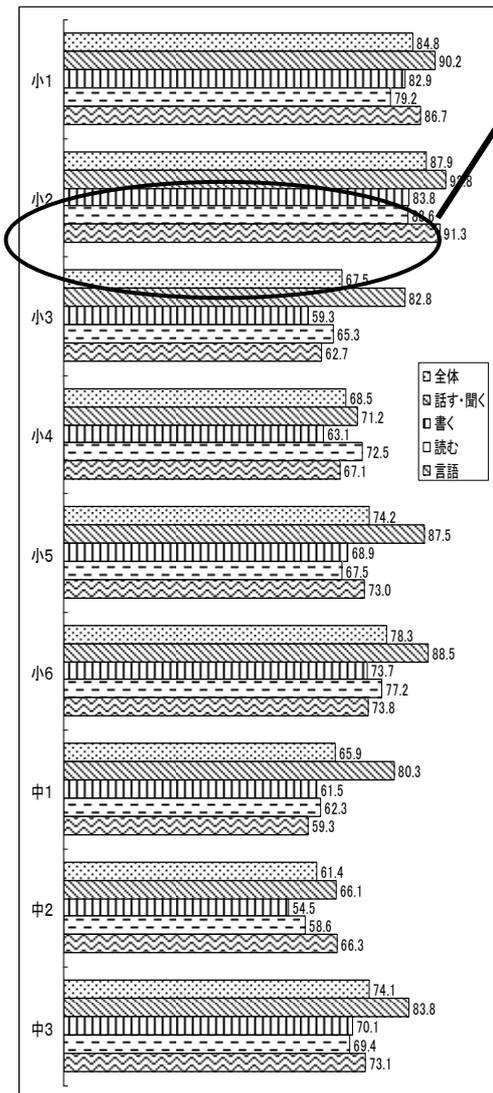


## 「学力向上プラン」策定など 各校での取組を!! No.3

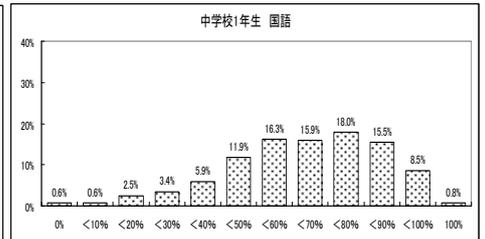
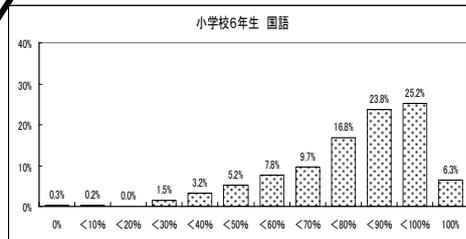
— 堺市独自の小中9年間を見通した学力調査の結果から —

◆国語…「聞く・話す」の正答率が高い。「書く」「言語」は小学校3年生から正答率が低くなっていく。

領域別正答率



全学年にわたって「聞く・話す」の正答率が高く、「書く」「言語」は、小学3年生から落ち込んでいる。



小学6年生ではピークが大きく右に寄った山型を示し、中学1年生ではピークが中央に寄り、かすかに二極化がみられる。

### 課題解決の方向性 ～書くことに対する系統的な指導例～

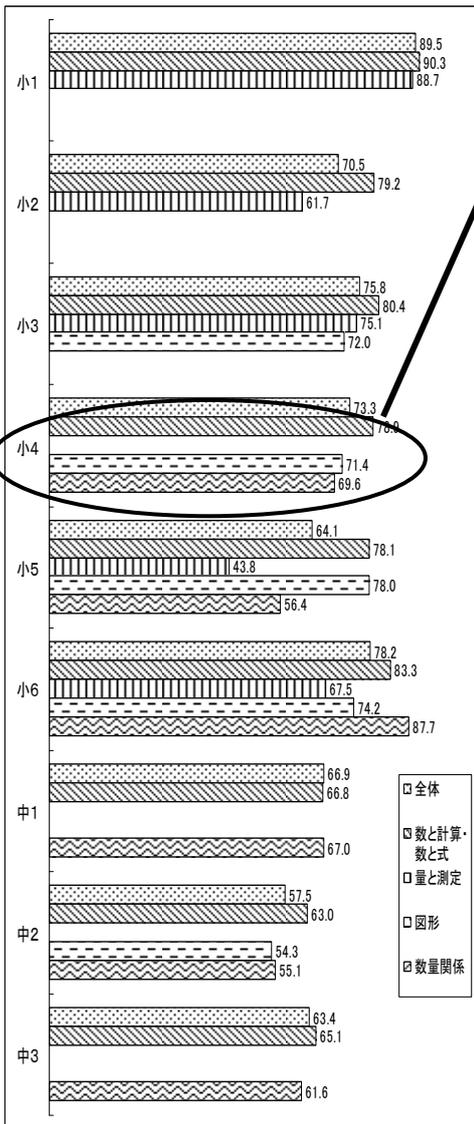
子どもの表現の育ちを文種の違いや表現の特徴・文章構成などの観点からとらえ、それぞれの学年に応じた学びを重視する。

#### 例：論理作文

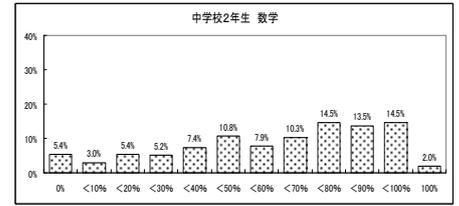
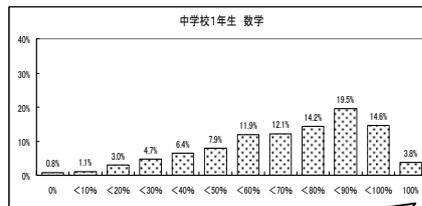
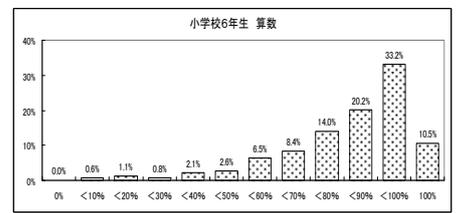
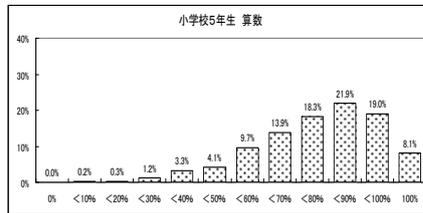
- ・ 小低学年…対象をよく見て詳しく書く。(時間軸に沿った変化)
- ・ 中学年…知らせたいことを構造的に書く。(はじめ、なか、おわり)
- ・ 高学年…読み手に働きかける作文を書く。(読み手に呼びかけ)
- ・ 中学1年…論理的作文を復習する。
- ・ 中学2年…構造を意識した表現を洗練する。(さまざまな構成方法)
- ・ 中学3年…説得的表現の工夫を自覚する。(読み手の立場に立って)

◆算数・数学…「数と計算・数と式」や「知識理解」の正答率が高い。「量と測定」は小学校5年生で正答率は低くなる。

領域別正答率



どの学年も「表現・処理」「知識・理解」の正答率が高く、「量と測定」領域は小学2年生・5年生で落ち込みが見られる。



小学6年生ではピークが大きく右に寄った山型を示し、中学1年生ではなだらかな丘陵型となり、中学2年生ではさらに下位層が拡大し、二極化がみられる。

課題解決の方向性 ～基礎的・基本的な内容の定着と論理的な思考の育成事例～

- 数と計算、図形などの基本的な知識・技能の定着を図るため、繰り返しスパイラル的に学習を積み重ねて、基礎的・基本的な内容が身に付くよう、小中の9年間を見通して内容配列を工夫するなど、ていねいな学習に努める。
- 「その日の授業でわかったことの振り返りの記述」など、言語化する行動に継続的に取り組み、算数・数学による表現や論理的な思考の育成に努める。

見える学校園 見せる学校園

生徒会活動でクリーン隊活動を…

堺市立鳳中学校では、生徒会活動でクリーン隊活動を実施しています。

この活動は、いつも生徒たちをあたたかく見守り続けてくださっている地域の方々への感謝の気持ちをこめて行っています。

6人ずつでグループにわかれ、校区内全域の溝掃除や空き缶・ゴミ拾いをします。学校を出発する時には空だったゴミ袋も、約一時間後にはどのグループもいっぱいになって、学校に帰ってきます。

クリーン隊活動は、夏と冬の年2回の実施ですが、生徒一人一人の笑顔から、達成感を感じることができる意義ある活動となっています。

